

海外出張報告

東南アジア諸国の家畜衛生向上のための豚繁殖・呼吸障害症候群 および他の豚感染症の診断と対応に関する支援プロジェクトの 最終会議に出席

出張期間：平成 23 年 11 月 30 日～ 12 月 4 日

出張場所：タイ・パタヤ

TAKAGI Michihiro
ウイルス・疫学研究領域 主任研究員 高木 道浩

平成 23 年 12 月 1、2 日にタイ・パタヤで開催された FAO 主催の Closing Workshop of TCP/RAS/3215 Assistance on diagnosis and management of porcine reproductive and respiratory syndrome (PRRS) and other swine disease to improve swine health status in selected countries (東南アジア諸国の家畜衛生向上のための豚繁殖・呼吸障害症候群および他の豚感染症の診断と対応に関する支援プロジェクトの最終会議) に出席しました。このワークショップは、2006 年、中国において高熱を主徴とした高い死亡率を示す高病原性 PRRS が発生し、

2007 から 2008 年にかけて、ベトナム、フィリピン、ラオス、カンボジアに発生が拡大したことから、高病原性 PRRS の診断を中心とした本プロジェクトが、2010 年より 2 年間で始められたものです。参加国は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナムです。また、オブザーバーとして OIE アジア太平洋地域事務所より櫻井健二副代表が参加されました。当初はバンコクでの開催予定でしたが、大洪水のためにバンコクより東南におよそ 170km 離れた地での開催となりました。本プロジェクトのリーダーである Dr. Carolyn C. Benigno



会議参加者（後列左から4番目が著者）

(Animal Health Officer、FAO) および FAO の乾健二郎専門員より、日本の PRRS の現状と高病原性 PRRS ウイルスの感染実験に関する発表要請があり、今回会議に参加しました。

Mr. Joachim Otte (Senior Animal Production and Health Officer、FAO) による開会の挨拶後、各国の養豚事情と家畜衛生についてのポスター発表があり、参加者との活発なディスカッションがありました。

2 日目は、ラボトレニングおよびマニュアルの説明後、ラオス、フィリピン、タイ、ベトナムより高病原性 PRRS、豚コレラの発生についてのポスター発表がありました。次に、ベトナムの National Center for Veterinary Diagnosis (NCVD) の Dr. Tung より、ベトナム、カンボジア、ラオスで発生した高病原性 PRRS ウイルスの遺伝子解析についての発表がありました。これらの地域では現在も高病原性 PRRS が発生していますが、発生当時の遺伝子型 (2007 年タイプ) と 2009 年タイプの 2 つに分けられること、カンボジアおよびラオスではベトナムと国境を接していることから豚の移動などにより同型のウイルスが伝播されたことが発表されました。続けて豚コレラウイルスの遺伝子解析についても発表され、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジアでは 2 つの遺伝子型が流行していること、高病原性 PRRS と同様に豚の移動により発生が拡大していることが示されました。どちらの感染症も陸続きであるが故の拡大であり、コントロールをするのが困難であることから有効なワクチンの使用が希望されていました。その後、私から日本における PRRS の現状と高病原性 PRRS ウイルスの感染実験に関して口頭発表し、最後に、Dr. Carolyn C. Benigno が今後の豚感染症の問題点、高病原性 PRRS への対策



ポスター発表



Dr. Carolyn C. Benignoとのディスカッション

について、参加国と共にディスカッションを行って終了しました。

本プロジェクトはこの会議で終了となりましたが、参加国は引き続きこのようなプロジェクトの継続を、さらに、動衛研への技術協力などを希望していました。動衛研は OIE のコラボレーティングセンターに認定されていることから、今後とも東南アジア各国との共同研究や技術協力といった国際協力を進めていくことが必要であると考えます。